

厚生労働省三重労働局発表

令和5年3月2日

テレビ・インターネット 3月2日記者会見終了後解禁  
新聞 3月2日夕刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 藤木 真保

課長 補佐 堀 保

地方労働市場情報官 木下 欣也

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(令和4年度第4・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和4年度第4・四半期(令和5年1月～3月)実績見込み及び次期(令和5年4月～6月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が19.7%で前期と比べ減少、「減少」が32.8%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲13.1となり前期と比べ11.5ポイント下降。次期見通しは▲3.3で上昇予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が20.6%で前期と比べ増加、「減少」が41.3%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲20.7となり前期と比べ5.1ポイント下降。次期見通しは▲11.3で上昇予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が21.3%で前期と比べ減少、「減少」が27.9%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲6.6となり前期と比べ11.3ポイント下降。次期見通しは0.0で上昇予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が32.3%で前期と比べ2.1ポイント増加、「ない」が41.9%で前期と比べ1.0ポイント減少。D I(「ある」-「ない」)は▲9.6で前期と比べ3.1ポイント上昇。

#### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」は0.0ポイントで前期と比べ減少、「やや過剰」は4.0ポイントで前期と比べ増加、「不足」は7.9ポイントで前期と比べ増加、「やや不足」は24.6ポイントで前期と比べ減少。D I(「過剰」-「不足」)は▲28.5となり前期と比べ1.8ポイント下降(過剰判断が減少)。次期見通しは▲27.7で「過剰」判断がやや増加の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所数は28事業所(45.9%)で、前期の24事業所(37.5%)より増加。

## ○資料

別添 「令和4年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和4年度第4・四半期（令和5年1月～3月）実績見込み及び次期（令和5年4月～6月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業63社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 令和4年度 雇用情報モニター報告集計

令和4年度 第4・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

令和4年度第3・四半期（4年10月～12月 以下前期）においては、受注・生産状況や企業収益の状況等のD Iがマイナスとなりましたが、第4・四半期（5年1月～3月 以下今期）においては、全ての指標のD Iがマイナスとなりました。

令和5年度第1・四半期（5年4月～6月 以下次期）の予想においては、全ての指標で上昇の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が19.7%、「減少」が32.8%で、D I（「増加」－「減少」）は▲13.1で前期と比べ11.5ポイント下降し、2期連続でマイナスとなりました。

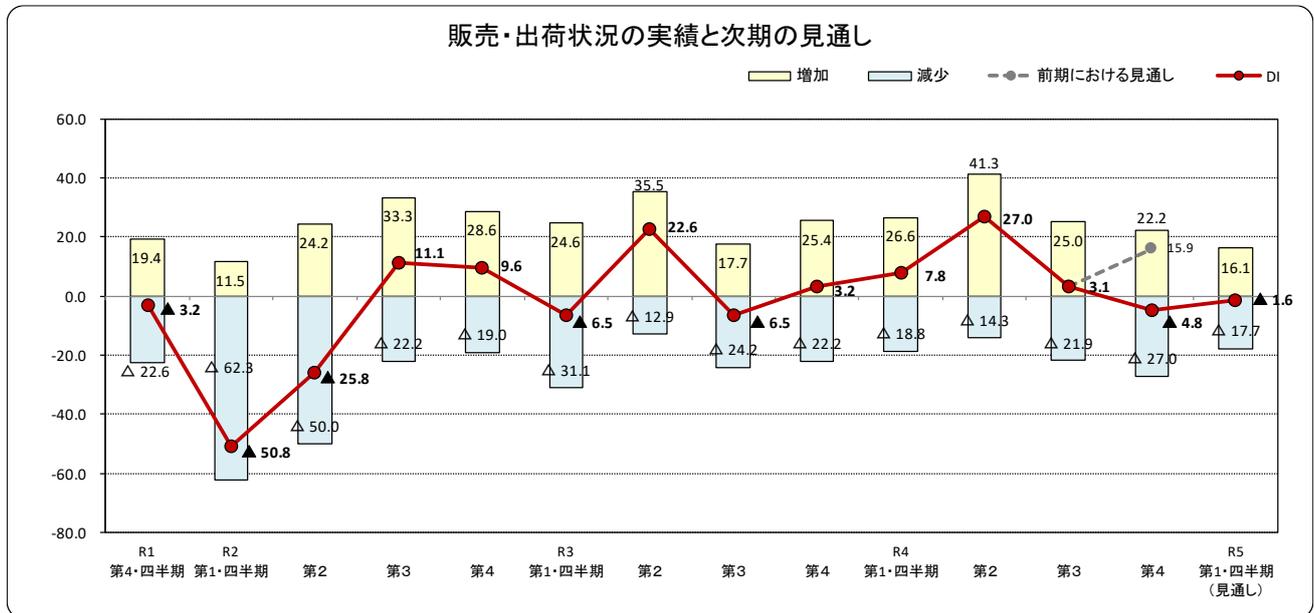
次期の見通しについては、D Iは▲3.3で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が22.2%、「減少」が27.0%で、D I（「増加」－「減少」）は▲4.8で前期と比べ7.9ポイント下降し、5期ぶりにマイナスとなりました。

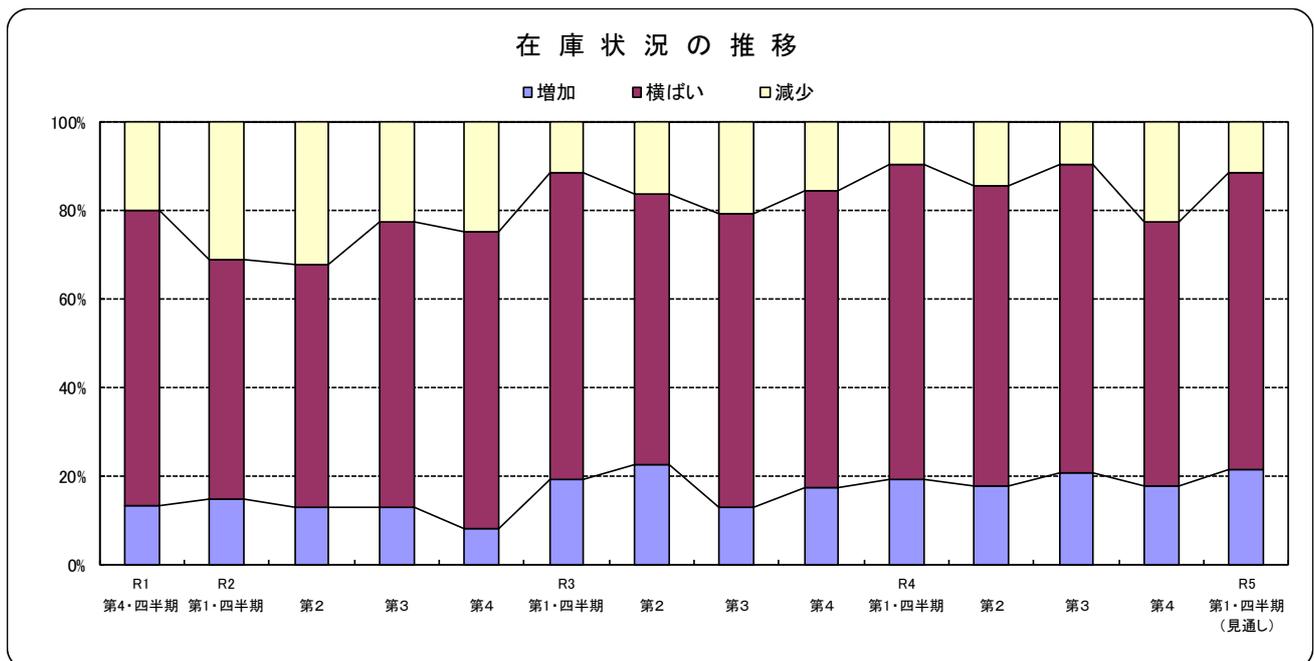
次期の見通しについては、D Iは▲1.6で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が増加、52期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が増加、「減少」が減少する予想となっています。

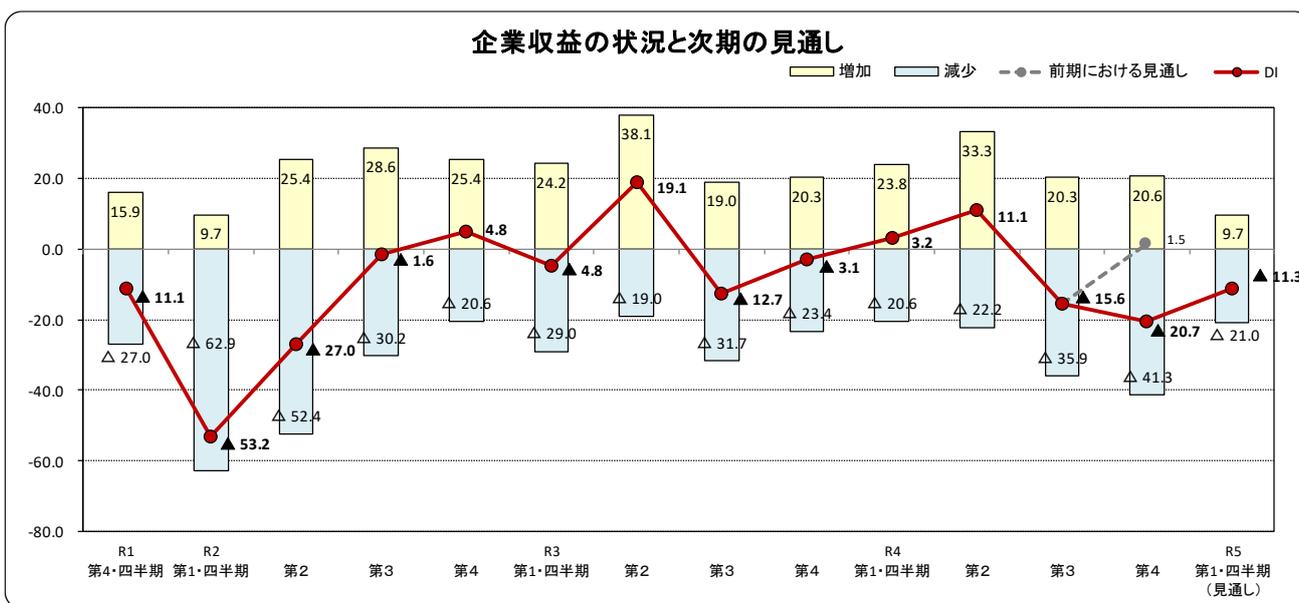


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が20.6%、「減少」が41.3%で、D I（「増加」－「減少」）は▲20.7となり、前期と比べ5.1ポイント下降し、2期連続でマイナスとなりました。

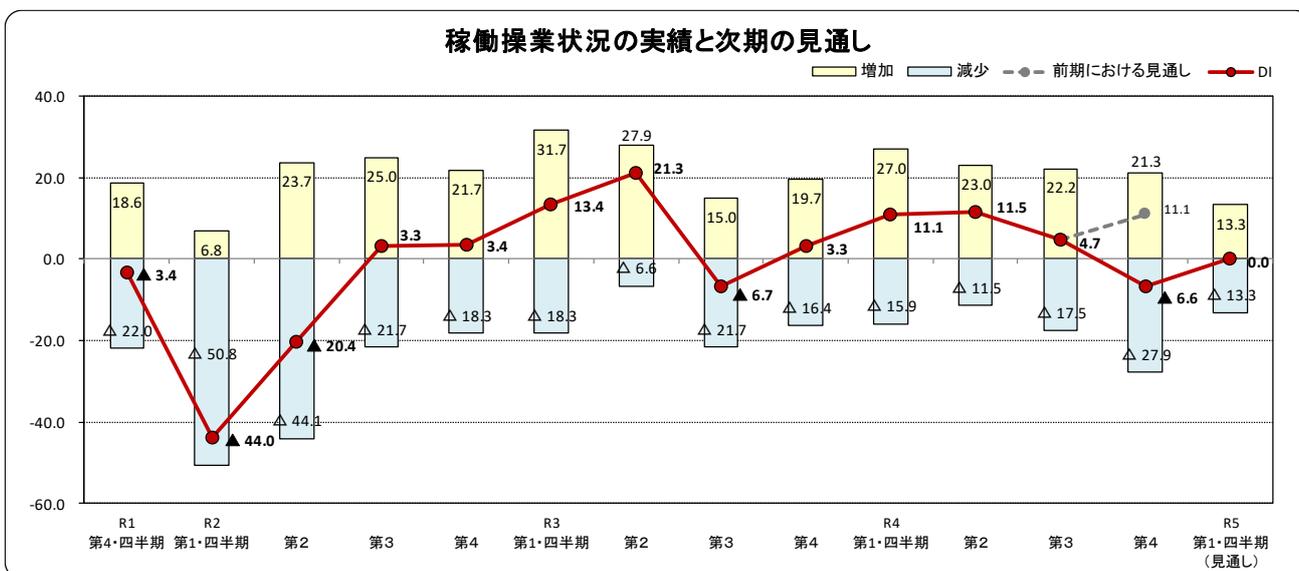
次期の見通しについては、D Iは▲11.3で、上昇する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

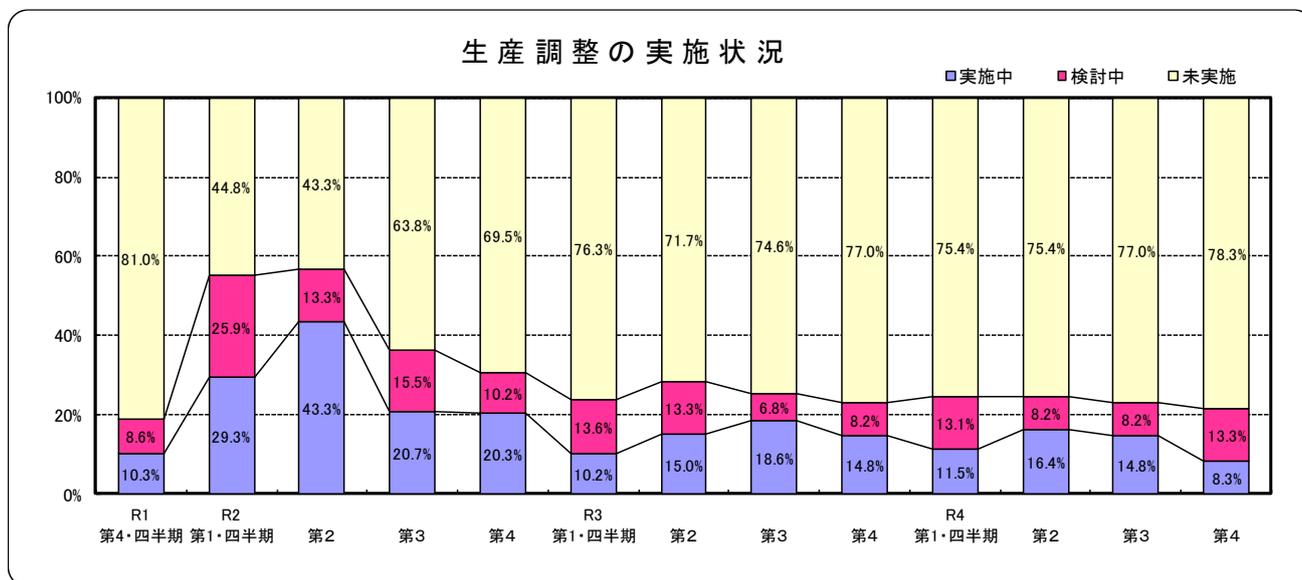
今期の稼働操業状況では、「増加」が21.3%、「減少」が27.9%で、D I（「増加」－「減少」）は▲6.6となり、前期と比べ11.3ポイント下降し、5期ぶりにマイナスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは0.0で、上昇する予想となっています。



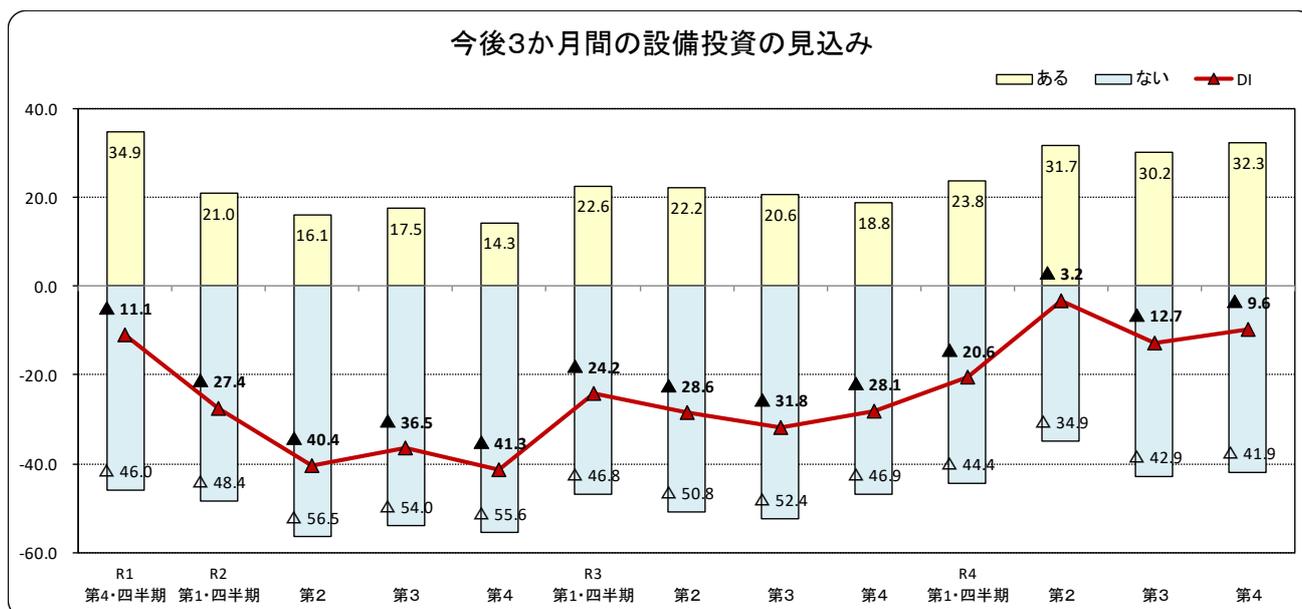
### 【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は78.3%で前期と比べ1.3ポイント増加、「検討中」は13.3%で5.1ポイント増加、「実施中」は8.3%で6.5ポイント減少となりました。



### 【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は32.3%で前期と比べ2.1ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は41.9%で前期と比べ1.0ポイント減少、D I（「ある」-「ない」）は▲9.6となり、前期と比べ3.1ポイント上昇しました。

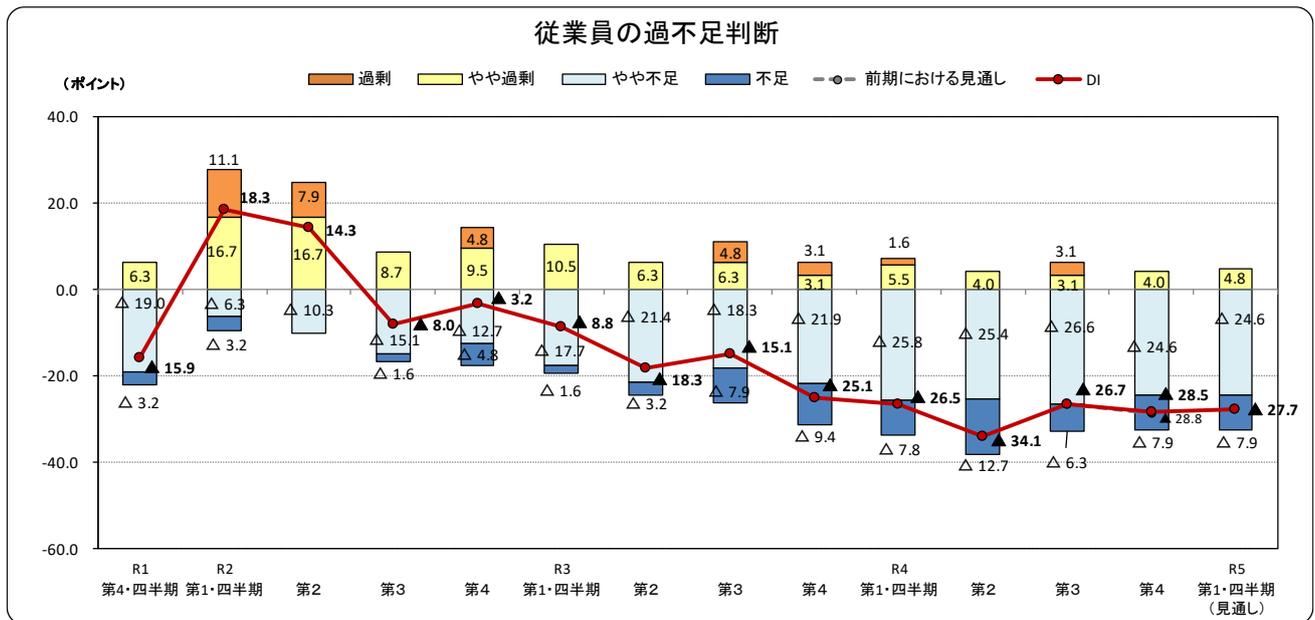


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 0.0 ポイントで前期と比べ 3.1 ポイント減少、「やや過剰」とする事業所は 4.0 ポイントで前期と比べ 0.9 ポイント増加、「不足」とする事業所は 7.9 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント増加、「やや不足」とする事業所は 24.6 ポイントで前期と比べ 2.0 ポイント減少し、D I（「過剰」－「不足」）は▲28.5 となり、前期より 1.8 ポイント下降（過剰判断が減少）し、10 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

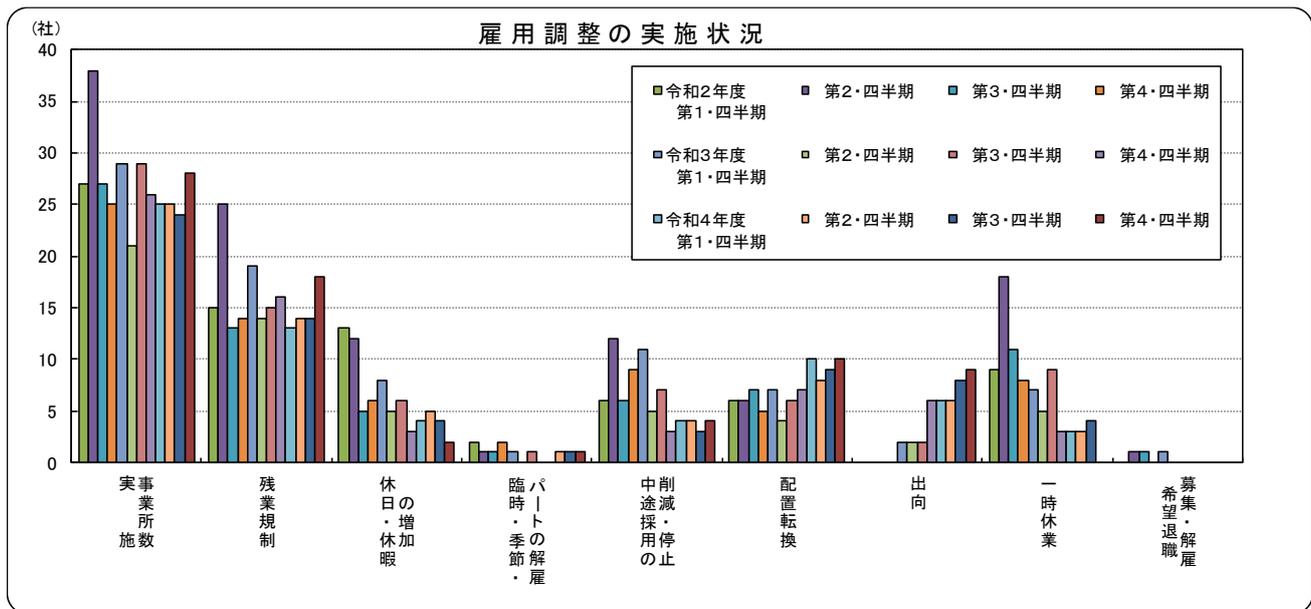
次期の見通しについては、D I は▲27.7 で、過剰判断がやや増加する予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 28 事業所（45.9%）で、前期の 24 事業所（37.5%）より 4 事業所の増加となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和2年度												
第1・四半期	61	25	9	27	15	13	2	6	6	0	9	0
第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度												
第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度												
第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0
第3・四半期	64	34	6	24	14	4	1	3	9	8	4	0
第4・四半期	61	29	4	28	18	2	1	4	10	9	0	0



<主なコメント>

- コロナ禍、ウクライナ戦争の影響により、原材料、ガス・電気、運送費、資材、全てが大幅に値上がりしており、収益を圧迫している。海外からの原材料が、価格・品質のほか入手できるかどうかにも非常に不安定であり、受注・生産・価格（値上げの検討）に大きな影響を与えている。（複合サービス事業）
- 従業員過不足感は、売り上げに比して過剰感があるが、実務上や有資格者数は不足気味。（建設業）
- 設備投資について、節電対策としてLED化の工事予定。（医療、福祉）
- 生産や収益は増加予想だが、納入先の状況に左右される可能性がある。（製造業）
- 生産・出荷は増加見込みだが、供給過剰による急激な投資調整で受注が減少している。収益面では電力をはじめ材料価格の高騰、部材入手難が続いており、売価転嫁を図るも追いつかず、収益を圧迫している。（製造業）
- 11、12月は旅行割の後押しもあり好調だったが、今期は旅行割の割引率の減少と地域クーポン額の減少により、宿泊客の伸びが当初の予想より低調である。次期は春休みやゴールデンウィークで業績回復が期待できるが、従業員不足が深刻化しそう。（宿泊業）
- 商品の値上げが多く、次期の動向が不安。原材料や電気料金の値上がりで、効率化が求められている。（卸売業、小売業）
- 受注量は減少、景気の後退感がある。原料・燃料費の上昇が収益を圧迫、春先までは現況が継続する見通し。（製造業）
- 納品先の売上が低調であり、影響を受けている。技術職の正社員採用が困難な状況が継続。（製造業）
- 生産資材や光熱費等の高騰による供給先の経営圧迫の影響を受け、受注動向は不透明。原材料価格等の高騰や調達の不安定などの要因により、収益・操業に下降の懸念がある。（製造業）
- 受注が振るわず、計画通りの経営数値に及んでいない。（製造業）
- 半導体不足による影響が徐々に解消され、今期まで生産量は増加傾向であったが、景気後退を見込んで次期の生産量は減少傾向の見込み。（製造業）
- 各取引先にて部品在庫が枯渇しているため、不透明な状況が継続している。（製造業）